

フォント研究プロジェクト(先端情報学実習)の進捗報告：
文章と楽曲に関するフォントの印象効果について
(実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 足立, 香純, 財部, あかり メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027424

フォント研究プロジェクト（先端情報学実習）の進捗報告 ～文章と楽曲に関するフォントの印象効果について～

足立香純(情報社会学科), 財部あかり (行動情報学科)

本研究プロジェクト（先端情報学実習）では、フォントによる印象の効果を探るため、以下の2つの観点から調査・分析を行ってきている。今回は、この進捗報告を行う。

[電子書籍における小説本文の文章とフォントに関する印象調査]本研究では、電子メディア上で、小説本文をより効果的にみせるフォントの特定を目的とする。具体的には、フォント8種類（リュウミン、游明朝体、貂明朝テキスト、うつくし明朝体、中ゴシックBBB、游ゴシック、UD デジタル教科書体、筑紫 A 丸ゴシック）で表示した小説本文4編（ファンタジー、純文学、ロマンス、ミステリー）の印象をSD法で調査する。最後に各フォントと各小説本文の調和度を5段階で測る。分析では、フォントと小説本文の調和に、それぞれの印象調査でみられた因子との繋がりが存在しているのではないかと仮定し検証を行う。今回は静岡大学情報学部12名を対象にし、アンケート用紙とKindlePaperWhiteを用いて、上記の印象を調査・分析する。[アーティストのロゴのフォントと楽曲に関する印象調査]本研究では、アーティストが用いるロゴのフォントと楽曲には親和性があると仮定し、ロックバンドを対象としてロゴと曲の関係性を調査する。具体的にはまず、4つのアーティストを選び、ロゴのフォントを変えたサンプルロゴ4つと楽曲を2曲ずつ用意する。用いた書体は

termina ,coranto ,bello ,herb ,market pro ,quita ,游明朝 ,HGP 創英角ゴシック,秀英丸ゴシック,HG 行書体である。実験では、静岡大学情報学部生87人を対象に、用意したサンプルロゴと楽曲を用いた印象評価をSD法によるアンケートを用いて行い、アーティストのロゴのフォントと曲の関係性を明らかにする。

(先端情報学実習,担当教員：杉山岳弘)